

公益社団法人 砂防学会北海道支部 平成 27 年総会

～ 平成 26 年 6 月 19 日から 1 年間の活動 ～

北海道大学農学部本館中講堂にて、16時30分より支部総会を開催しました。出席者23名、委任27名で、支部役員の交代、この1年間の活動の確認、これから1年間の活動計画の審議を行っています。

支部活動が始まって1年目を迎える総会は、支部の設立に尽力いただいた南支部長の開会挨拶で始まり、移動に伴って今回、小山内先生に支部長をバトンタッチすることになりました。また、副支部長に山田前支部長から北海道建設部土木局河川砂防課の田中砂防災害担当課長にバトンタッチも承認されました。

支部設立からの一年間に取り組んだ土砂災害緊急調査や研修会、後援した行事の報告が行われた他、「災害等に係る調査の相互協力に関する協定」が国土交通省北海道開発局と公益社団法人の土木学会、地盤工学会、日本地すべり学会及び砂防学会の各北海道支部の間で締結されたこと、支部の腕章、ホームページの作成について報告されました。

平成 27 年度業計画案では、研修の内容や対象について幾つかの意見が有り、さらに議論を深めながら取り組んでゆくことで承認されています。

幾つかのご意見を紹介します。

- 支部ならではの気軽な意見交換ともなる研究発表会の場があると、知識や情報の拡大にもつながり、学会への参加者が増えるのではないか。
- 市民向けに防災に対する知識を普及する場や出前講座を設けると土砂災害への備えになるし、警戒区域などへの理解も深まるのではないか。行政や企業とタイアップした取り組み方もある。
- 昨年北海道と（一財）北海道建設技術センターが主催し、砂防学会北海道支部が後援した「土砂災害を考える市民の集い・琴似発寒川砂防事業、60 年を振り返って」は多くの市民が参加し良い取り組みだったのではないか。
- 本年度設立された「砂防・急傾斜管理技術者資格」など資格の取得を促すような研修があると若手技術者の参加が期待できるのではないか。
- 砂防学会員以外の研修参加可能性を検討し、新たな会員を増やしすそ野を広げる取り組みも考えてはどうか。

これからの支部活動に会員の熱い思いやアイデアが提案され、予定していた1時間を超える熱心な議論をいただきました。

総会後は場所を変えて、渴いたのどを潤す懇親会です。小山内新支部長の乾杯で始まり、懇親、意見交換がなされ、大いに盛り上がったことは言うまでもなく、多くの参加者が二次会へと…盛況な懇親会となりました。



総会風景



前支部長 南先生 開会挨拶



新支部長 小山内先生 議事進行